



大西英文先生の急逝を悼む

日本臨床検査学教育協議会常務理事（事務局長）、昭和医療技術専門学校副校長であられた大西英文先生が平成 22 年 4 月 22 日にご逝去されました。それまで約 1 年の間、体調を崩し、入退院を繰り返しておられたとはいえ、急な訃報に接し、気が動転してしまい手の震えが止まりませんでした。私は当時、怪我のため入院中でした。22 日に大西先生から連絡をもらい今後の協議会の運営について電話にて打ち合わせをする予定であったのが、残念なことにその連絡が訃報となってしまいました。

大西先生との出会いは、昭和 58 年の長野県諏訪市で行われた全国臨床検査技師教育施設協議会夏期研修会の時だったと記憶しています。研修会は 2 泊 3 日で寝食を共にし、教員の親睦を深めるという目的がありました。その当時、私は東洋公衆衛生学院、大西先生は昭和医療技術専門学校に勤務しており、同じ専門学校の教員ということで意気投合し、夜中まで教育論を交わしたことを覚えています。大西先生と協議会との関係は、昭和 59 年から平成 15 年まで私立学校部会の事務局長、平成 5 年から平成 15 年まで全国臨床検査技師教育施設協議会常任幹事そして平成 16 年からは事務局長を歴任され、平成 18 年からは法人化に伴い、日本臨床検査学教育協議会常務理事、そして事務局長として第一線で活躍され、協議会を牽引しておられました。

私が会長としてそして法人化してからは理事長として大過なく今まで過ごせたのは大西先生のおかげであり、まさに私の片腕的存在で、欠くことのできない人材でした。特に法人化に際しては、様々な困難がありました。しかし、今の機会を逃すと将来にわたり法人化は難しいということや任意団体のままでは他の団体との交渉や監督官庁との折衝そして教育施設をまとめていくことが困難という

理由から大西先生自ら東奔西走して実現に至ったわけです。また同様に日本臨床検査学教育学会の立ち上げについても大変な努力をされました。今まで夏期教員研修会としてあったものを、学会形式にして若手教員の資質向上になればという強い思いで平成 18 年の 8 月に第 1 回学会が開かれました。演題数 72 題、参加者 350 名と成功裏に終わり、事務局長であった大西先生と胸をなで下ろした記憶があります。

大西先生は医療人として人を愛する気持ちを忘れず、純粹でまがったことの嫌いな性格で、たぎる熱血漢であられました。講義も定評があり、授業を受けた学生は、また聞きたいと思わせるようなすばらしい内容でした。協議会にとっても、そして臨床検査技師教育界にとっても大変惜しい人物でありました。大西先生とは今後残された時間で今の学生のためにまた日本の臨床検査技師の発展のために何らかの仕事を一緒にしようと約束していたのにそれが実現できず、残念でなりません。

我々は、その意思を受け継ぎ少しでも臨床検査技師を目指す学生のために努力をしたいと思っております。どうか天国から見守っててください。

大西先生のご冥福をお祈りします。 合掌

一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会
理事長 三村 邦裕